



東京女子医科大学腎臓病総合センター泌尿器科

Tokyo Women's Medical University
DEPARTMENT
OF UROLOGY

包茎の手術を受けられる患者様への説明文書

■包茎とは

包茎とは、亀頭が露出できない状態をいいます。亀頭が十分露出されるまで包皮を翻転できない場合(真性包茎)や、翻転はできるが包皮輪があり亀頭が締め付けられる(嵌頓包茎)を呈する場合に手術が必要です。

■方法と合併症

大人の場合は、局所麻酔で行ない、外来手術が可能です。術後の経過を見るため、頻度は状態により異なりますが、1週間程度は、外来通院が必要となります。

陰茎の根元に麻酔をした後、余剰の包皮を切除します。次に、切除断端の内側と外側の皮膚を縫い合わせます。大変腫れやすくまた不潔になりやすい場所であるため、程度の差はありますが手術後2～3週間の間、陰茎皮膚が必ず腫れます。手術創が完全に治っても、感覚の変化が見られるのが通常です。術後疼痛に対し、鎮痛薬の適時服用が必要となる場合があります。

手術後の包皮の形は、切除部の修復力の差で、手術前の御本人のイメージどうりにはいかないことがあります。

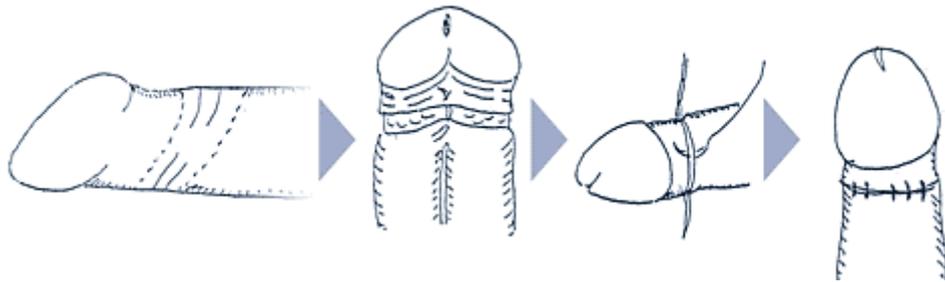
小児の場合は全身麻酔で行いますが、日帰り手術となります。手術方法は大人と同じです。感覚の変化等は認めません。抜糸の必要のない糸(自然にとける糸)で縫合します。

合併症: 内出血、創部感染、創部瘢痕形成(ひきつれ)、創部離開、術後出血により再手術が必要となる場合があります。

麻酔の副作用: 麻酔薬へのアレルギー反応、痙攣、血圧低下、注射に伴う皮下出血などの危険があります。

不明な点がありましたら、主治医、担当医にお尋ねいただくか、泌尿器科外来までお知らせ下さい。

Tel. 03-3353-8111(代表)



包茎の手術を受けられる患者さんへの説明文書

東京女子医科大学泌尿器科学教室

Department of urology, Tokyo women's Medical University.

以上の点について説明を受け、よく理解し、処置に同意します。

平成 年 月 日 患者氏名

患者家族氏名

その他、特に説明した内容

a)

-

b)

-

以上の点について、患者、患者家族に十分説明しました。

説明医
